

令和6年度認知症関連施策事業の実績

事業名	認知症サポーター養成事業
事業内容	・認知症キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座の開催およびキャラバン・メイト活動の拡大
目 標	・認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る認知症サポーターを増やし、認知症の人と家族への支援の輪を広げる。
実 績	・認知症サポーター養成講座 実績15回 【R5:25回】 サポーター養成講座受講者数 実績412人（うち初回受講者：403人） 【R5:434人（うち初回受講者：340人）】 小学生 55人 中学生 99人 高校生 70人 大学生 97人 団体・企業 49人 地域 42人
評 価	例年養成講座を開催している地域・ボランティア・学生に加えて企業や金融機関にも声かけを行い、商業施設内のスタッフに対して実施した。また、金融機関への声掛けにより一般市民対象の養成講座に金融機関職員が参加していた。

事業名	認知症サポーター活動推進・地域づくり推進事業
事業内容	地域における認知症高齢者とその家族への相談・支援の実施と、認知症の人への支援体制を構築し関係者間の連携強化を行う。
実 績	・認知症サポーターステップアップ講座を2か所で開催 （有漢町畦地サロン・認知症サポーター希望者） ・オレンジサポーターの登録 新規9名 ・新規で「チームオレンジ畦地有志」が結成された。 ・オレンジサポーター、チームオレンジ（備中・川上・有漢）のフォローアップとして研修交流会を実施した。内容は消防署による「救急法、応急処置について」と意見交換（困りごと等）を実施した。
評 価	新たに1か所でチームオレンジが立ち上がった。またチームオレンジのフォローアップとして研修交流会を実施した。今後も認知症の人や家族が地域での生活が継続できるように各地でのチームオレンジの立ち上げ及び活動支援が必要。

事業名	認知症高齢者見守り事業			
事業内容	・みまもりネットワークの体制整備と高齢者位置情報サービスを利用する際の初期導入費の助成を行う。			
	[みまもりネットワーク]			
	・認知症等により徘徊等で行方不明となる心配のある高齢者の家族に、事前登録をしてもらい、日常の見守りと行方不明時の連絡体制、警察や消防等との情報共有を行い、早期発見へ繋げる			
	[みまもりサポーター（大切なあなたを見守り隊）] みまもりメールに登録した団体及び企業			
	[高齢者位置情報サービス費助成] 高齢者位置情報サービスを利用する際の初期導入費の助成 助成額：10,000円（初期導入費用のみ、維持費は本人負担）			
	※行方不明件数（市把握分）			
		R 4	R 5	R 6
	行方不明事案	4 件	1 件	2 件
	みまもりネットワーク活用	0 件	0 件	0 件
実績	・みまもりネットワーク登録者 24 件【R 5：25 件】 ・みまもりサポーターの登録 39 団体【R 5：39 団体】 ・位置情報サービス初期導入費助成 0 件【R 5：0 件】			
評価	新規に4名がみまもりネットワークに登録し、関係機関と情報共有・見守りを行った。みまもりサポーターの活用ができていないため、あり方について検討が必要である。位置情報サービスの初期導入費の助成については、対象者と対象機器の拡大を行っているが、利用には繋がっていない。			

事業名	認知症初期集中支援推進事業			
事業内容	・認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の診断を受けていない方や、介護サービスの利用に結びついていない方等で、認知症と思われる対象者を医療や介護へ繋ぎ、自立した生活を支援する。 認知症初期集中支援チーム員 サポート医 3 名 保健師 2 名（うち1名、令和6年度研修受講） 社会福祉士 3 名（うち1名、令和6年度研修受講） 介護福祉士 1 名 計 6 名 ・チーム数：1			
実績	・新規初期集中支援チーム員の養成 2 名 ・初期集中支援チーム員会議の定例開催 5 月、8 月、1 月 事例検討、情報交換を行い、連携を深めた。 ・初期集中支援チーム稼働：4 件 (訪問 延べ14回、チーム員会議 延べ8回)			
評価	今年度の事例は、ケアマネからの相談2件、家族からの相談2件であった。いずれも、本人の医療機関受診拒否やサービス利用拒否があり、困っている状況であったが、関係機関や本人、家族との話し合いを重ねることで、それぞれの役割を明らかにし、課題解決に向かうことができた。			

事業名	認知症ケア向上推進事業						
事業内容	・地域密着型施設を始め、認知症対応可能な専門職やキャラバン・メイトがいる事業所、ボランティア団体等により認知症の人とその家族、地域の人が集う場（認知症カフェ）を運営する。 ・地域における認知症高齢者とその家族への相談・支援の実施と、認知症の人への支援体制を構築し関係者間の連携強化を行う。 ・認知症地域支援推進員（地域包括支援センター内7名）を配置（専任1名（保健師）、兼務6名）し、認知症の人やその家族への支援を行う。						
実 績	【認知症カフェ】 継続9、新規0 計9カ所 延106回 利用者：1231人（認知症135人[R5:126人]、家族53人、一般1043人、相談14件）						
		認知症の方	新規認知症	家族	新規家族	地域の方	相談件数
	1 カフェすずらん	39	7	10	3	85	2
	2 マスカットカフェ	0	0	0	0	138	0
	3 カフェ福ちゃん	1	1	1	1	58	0
	4 ふらっとカフェオレンジ	0	0	0	0	44	0
	5 なりわ茶屋	38	4	33	7	127	4
	6 なりわ茶屋in川北	10	2	0	0	87	0
	7 かわかみ茶坊	42	5	9	2	320	1
	8 カフェキク	4	4	0	0	59	0
	9 サニー健幸ラウンジ	1	1	0	0	125	7
	計	135	24	53	13	1043	14
実 績	【認知症地域支援推進員】 ・新規に2名が認知症地域支援推進員研修を受講し、1名が現任者研修を受講した。 ・認知症の人、家族への個別支援⇒ 54名 高梁（10）津川（1）川面（1）中井（3）宇治（4）巨瀬（6） 落合（4）有漢（8）川上（16）備中（1） ・本人ミーティングの開催 第1回 日時：6月19日（水）13:30～15:00 参加者：本人 4名、家族 3名、支援者 3名 第2回 日時：12月4日（水）13:30～15:30 参加者：本人 6名、家族 4名、支援者 5名 【普及啓発活動】 ・9月の認知症月間を中心とした認知症理解普及啓発活動を開催 （幟の設置、パネル展示、街頭啓発、まちかど相談会の実施、行政放送番組の作成・放送、認知症を知るフェアの開催、マグネットステッカー、啓発ポスターの掲示、オレンジガーデニングプロジェクトの実施、一般向け認知症サポーター養成講座の開催） ・吉備国際大学でのパネル展示、備北信用金庫主催認知症予防セミナーでのパネル展示の実施 ・本人向け認知症ケアパスの展示・配布、市内医療・介護等事業所の他、市内金融機関、自動車学校に配付し、普及啓発を行った。						
評 価	・介護保険サービスを利用しない認知症の人やその家族が安心して通える認知症カフェが必要。 ・今年度、初めて本人ミーティングを開催。今後も意識して本人の声を聴いていく必要があり、また、その聴いた声やニーズをどう活かしていくか検討が必要。 ・9月の認知症月間に合わせて認知症理解推進の取り組みを行った。今後も理解推進のためにこの取り組みは今後も継続が必要である。						

事業名	家族介護者交流事業（元気回復事業）
事業内容	・要介護者または介護者が市内在住で要介護者（４０歳以上）を在宅で介護している家族介護者を対象に介護支援や介護に関する知識を習得などを行う
実績	第１回 日時：令和６年７月１９日（金）１０：３０～１３：３０ 内容：フラワーアレンジメント、講話「お口のケアと肺炎予防」、参加者交流会、会食 参加者：４人 第２回 日時：令和６年１１月２７日（火）１０：００～１４：００ 内容：施設見学（介護老人福祉施設 光愛館）、参加者交流会、会食 参加者：９人 第３回 日時：令和７年３月５日（水）１０：００～１４：００ 内容：講話「薬の飲み合わせについて」、アロマクリーム作り、参加者交流会、会食 参加者：１１人
評価	・参加者は少数であったが、口腔ケアと肺炎予防の講話は「大変ためになった」との感想があり、フラワーアレンジメント等普段できないことを行い、「心が癒された」「有意義な時間を持つことができた」などの意見があった。 ・施設見学では熱心に質問する様子等もあり「勉強になった」といった意見や初参加の方もおられ「みんなと話ができて楽しかった」などの意見があった。 ・家族介護者支援のため、引き続きリフレッシュや在宅介護支援ができるよう開催していく。

事業名	成年後見制度利用支援事業
事業内容	・要支援者の判断能力の低下による金銭管理の不安を軽減するため、成年後見制度の申立てにかかる諸費用、成年後見人等の報酬の全部または一部を支給し利用を支援する。
実績	・市長申立人数 ４名【Ｒ５：１名】 ・報酬助成決定者延べ件数 １８件【Ｒ５：２１件】
評価	・高梁市権利擁護センター（高梁市社会福祉協議会へ委託）と連携を図り、成年後見制度の利用促進を行った。

事業名	権利擁護事業
事業内容	・高齢者に対する虐待への早期発見・対応、生活上の困難事例の対応など権利擁護等アドバイザー（弁護士、司法書士、社会福祉士）の助言、指導により問題解決を図る。 【委託先：岡山県弁護士会、岡山県司法書士会、岡山県社会福祉士会】 ・被虐待高齢者の避難先の確保を円滑に行い権利擁護の促進を図る。
実績	- 高齢者虐待通報件数 ４件 【Ｒ５ ０件】 - 権利擁護・虐待相談延数 ９３件 【Ｒ５ ８８件】
評価	・民生委員・主任児童委員に向けて虐待防止や早期発見・対応の周知を行った。 ・虐待防止定例会議の開催により、権利擁護等アドバイザーから定期的に専門的助言を受けることにより、虐待防止体制の強化を図った。 ・高齢者虐待防止のための指針の策定

認知症施策検討委員会での協議

第1回 令和6年7月8日(月) 13:30~15:30

《議題》(1)令和6年度認知症総合支援事業及び重点目標について

(2)本人支援について

(3)グループワーク

①本人ミーティングの会の名称について

- ・オレンジ/マリーゴールド ミーティング、ひまわりミーティング等花をテーマにする
- ・「想う」「語ろう」の言葉を入れるのはどうか
- ・ロバ隊長と共に、ワイワイ、ぼかぼかサロン、みかんの会、スマイルミーティング
- ・本人の声「周りを元気にしたい」意見から、いきいきミーティング

②本人ミーティングを継続していくために

- ・内容を変えながら定期的に開催する(本人のみ、支援者のみ、専門職のみで行う、医師が来る等)
- ・本人の満足度を大切にする
- ・人と人のつながりを持たせる、話しやすい雰囲気作りをする
- ・囲んで話す、少人数に分けて話す等様々な話し合いのパターンで全員が話せるよう工夫する

③街頭啓発物品(うちわ)に載せる内容について

- ・今年度作成している横断幕と絵を合わせる
- ・ホームページや動画につながるQRコードを載せる
- ・外で持ち歩きしやすいようなデザインにする

第2回 令和6年11月25日(月)13:30~15:30

《議題》(1)令和6年度の認知症総合支援事業の進捗状況について

グループワーク「認知症理解啓発活動についての評価と来年度に向けて」

- ・街頭啓発の時間の分散や配布物の検討(持ち運びやすさ)、待ち時間が発生する場所での実施を検討する必要がある
- ・成羽病院では待ち時間に違和感なく物忘れチェックができた
- ・人がいると入りにくい人もいたかもしれないため、人がいない時間も必要ではないか
- ・来場者の評価のため、チラシやリーフレットの枚数の管理をする
- ・チラシの一部を投票用紙にして、投票してもらう
- ・展示について医療機関は人が多く待ち時間も発生するのでいいのではないかと。
- ・高梁中央病院に声掛けするのはどうか。

(2)本人の声について

グループワーク「自分が認知症になったとき、どのようなまちであつたらいいか」

- ・認知症になったらお金がもらえる、乗り物券など得がある、得意分野・強みを活かせる。
- ・行政からお知らせで認知症チェックがある(80歳になったら全員に通知など)
- ・仕事ができ、自分でお金を稼ぐことができる
- ・恥ずかしくない、隠さなくていい雰囲気づくり、認知症に対する暗いイメージを払拭したい
- ・安価で入所できる施設がある

第3回 令和7年2月13日(木)13:30~

《議題》(1)令和6年度の事業実績及び評価について

(2)グループワーク「ヘルプカードについて」

- ・名称は認知症=オレンジ、ロバ隊長が浸透しつつあるため「オレンジカード」がイメージしやすいのでは
- ・内容は名前、住所、かかりつけ医、身寄りの連絡先が必要
- ・作成後、カードに対する理解・普及啓発や持ち歩いてもらう工夫が必要
- ・内容を沢山盛り込むと悪用される危険もあるため、名前や家族・連絡先程度でいいのではないかと

令和7年度認知症施策検討委員会

項 目	内 容
事業 目標	① 認知症の人の早期発見と早期支援、医療・介護連携による切れ目のない支援体制（認知症初期集中支援チーム）の強化 ② 認知症の正しい知識の普及啓発 ③ 本人の気持ちや意見を聞くことでニーズ把握ができ、本人やその家族が望む生活を継続できる
目指 す 成果	① 支援が必要な認知症の人を早期に把握し支援に繋げることができる ② 市民が認知症について知る機会ができ、正しく理解する。 ③ 認知症の人への理解者が増えて、本人やその家族の思いが反映され安心して地域活動への参加が継続できる
令和 7 年度 取り 組み	① 認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チームを中心とした本人・家族支援 ② 9月の認知症月間を中心とした認知症理解啓発活動、認知症ケアパスの活用、認知症サポーター養成講座の積極的開催 ③ 本人ミーティングの開催、チームオレンジとの連携・活動支援
年間 予定	① 認知症施策検討委員会（年3回）：7月、11月、2月 ② 認知症初期集中支援チーム員連絡会議の開催（年3回） ③ 認知症月間を中心とした認知症理解啓発活動の実施 ④ 認知症サポーターステップアップ講座の開催、チームオレンジ・オレンジサポーター交流会の開催と活動支援 ⑤ 認知症カフェ連絡会、キャラバンメイト連絡会、家族介護者交流事業の開催 ⑥ 認知症声かけ体験の実施 ⑦ 本人ミーティングの開催 ⑧ ヘルプカードの作成

令和7年度 認知症総合支援事業について



1

令和7年度認知症総合支援事業計画

月	内 容
5月	認知症初期集中支援チーム員連絡会：5月29日(木)
6月	本人ミーティング：6月18日(水)
7月	第1回認知症施策検討委員会：7月9日(水) 認知症サポーター養成講座(市職員向け)、認知症カフェ連絡会：7月25日(金)
8月	広報8月号、民生委員会にて「認知症月間普及啓発活動」について広報 家族介護者のつどい：8月18日(月)
9月	認知症月間普及啓発活動 認知症サポーター養成講座(一般市民向け)：9月24日(水)
10月	民生委員会にて「高齢者虐待防止」協力依頼 認知症に関する展示(吉備国際大学)：10月1日～31日 認知症初期集中支援チーム員連絡会：10月30日(木) 認知症サポーターステップアップ講座①(希望者) チームオレンジ・オレンジサポーター交流会：開催時期検討中
11月	家族介護者のつどい：11月6日(木) 第2回認知症施策検討委員会：11月14日(金) キャラバン・メイド連絡会、認知症高齢者声かけ訓練、本人ミーティング：開催時期検討中
1月	認知症カフェ連絡会：1月27日(火) 認知症初期集中支援チーム員連絡会：1月29日(木) 認知症サポーターステップアップ講座②(希望者)
2月	民生委員会にて「高齢者のひとり歩きに声かけ」協力依頼 第3回認知症施策検討委員会：2月13日(金) 家族介護者のつどい：開催時期検討中

2

今年度の重点目標

1. 認知症の人の早期発見と早期支援、医療・介護の連携による切れ目ない支援体制（認知症初期集中支援チーム）の強化
2. 認知症の正しい知識の普及啓発
3. 本人の気持ちや意見を聴くことでニーズ把握でき、本人やその家族が望む生活を継続できる

3

1. 認知症の人の早期発見と早期支援、医療・介護連携による切れ目のない支援体制（認知症初期集中支援チーム）の強化

【取組内容①】認知症地域支援推進員を中心とした本人・家族支援

認知症地域支援推進員を地域包括支援センターへ6名配置

（専任1名（保健師）＋兼務5名（保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員）

今年度新たに1名（保健師）が認知症地域支援推進員研修を受講予定

⇒支援が必要な認知症の人を早期に把握し、支援に繋げる

※認知症地域支援推進員とは

認知症の人の状態に応じて必要なサービスが適切に提供されるように、医療機関や介護サービス、地域の支援機関の間の連携支援や、認知症の人やその家族を対象とした相談業務などを行う者

4

1. 認知症の人の早期発見と早期支援、医療・介護連携による切れ目のない支援体制（認知症初期集中支援チーム）の強化

【取組内容②】認知症初期集中支援チームを中心とした本人・家族支援

認知症サポート医 3名

認知症初期集中支援チーム員 6名（医療職2名、福祉職4名）

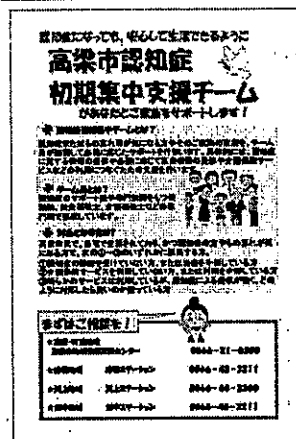
今年度新たに2名が研修受講予定（医療職1名、福祉職1名）

令和6年度対応ケース 4件

⇒相談があったときにタイムリーに支援できるように体制整備を行う。

認知症初期集中支援チーム員連絡会議を実施し、認知症サポート医との連携を図る。

チーム員連絡会議を開催（年3回）し、サポート医との連携強化、情報共有を図る。



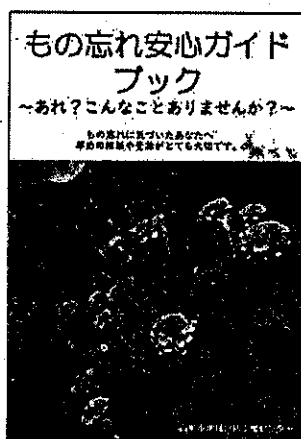
2. 認知症の正しい知識の普及啓発

【取組内容①】9月認知症月間を中心とした認知症の理解啓発活動

認知症理解啓発活動の開催

のぼり設置、パネル展示・まちかど相談会の実施、
図書館・図書室での認知症を知るフェア、
啓発ポスター・啓発ステッカーの掲示、
オレンジガーデニングプロジェクトの実施
一般向け認知症サポーター養成講座の開催 等

2. 認知症の正しい知識の普及啓発



【取組内容②】認知症ケアパスの活用

本人や家族早めに気づき、必要時に適切な支援を受けることができるように引き続き広報と活用を行う

7

2. 認知症の正しい知識の普及啓発

【取組内容③】認知症サポーター養成講座の積極的開催

○企業に向けての認知症サポーター養成講座受講勧奨

市内金融機関・市内企業へ受講依頼予定

○若年層に向けての認知症サポーター養成講座受講勧奨

市内全小学校・中学校・高校への開催依頼文の配付予定

8

3. 本人の気持ちや意見を聞くことでニーズ把握ができ、本人やその家族が望む生活を継続できる

【取組内容①】本人ミーティングの開催

第1回：6月18日（水）13：30～15：30

たいこまるプラザ

内容：本人ミーティング、家族ミーティング、おやつ作り

参加者：本人7名、家族4名、支援者7名

第2回：11月頃開催予定

認知症の人と家族の会・認知症サポーター

会合のこと、実施のこと

語り合いませんか

認知症の本人やご家族が通える、通ってほしい、通える場所を探しています。今後は、本人の気持ちに合わせた活動を行います。ご参加ください。

対象者 認知症と診断を受けた方、もしくはもの忘れが気になる方、ご本人だけ、ご家族の参加も可です。

日 時 令和7年6月18日（水）13:30～15:30

会 場 たいこまるプラザ2階 市民活動室2（高槻市高槻町下原504）

参加費 材料費 200円

持ち物 お気に入りの写真1枚、エプロン

問い合わせ先
高槻市認知症対策推進課
地域包括支援センター
電話 0664-21-0500

9

3. 本人の気持ちや意見を聞くことでニーズ把握ができ、本人やその家族が望む生活を継続できる

【取組内容②】チームオレンジとの連携・活動支援

- ・チームオレンジ（布瀬のわ、かわかみ、羽場、畦地）の活動支援
- ・認知症の本人やその家族が地域活動へ参加できる

各地区で活動中のチームオレンジをオレンジコーディネーター、地域包括支援センター地区担当職員を中心としてチームオレンジの活動支援を行う

チームオレンジ・オレンジサポーター交流会を開催し、チームオレンジ・オレンジサポーターの活動支援を行う

⇒認知症の人の理解者や支援者が増えて、本人やその家族が安心して、活動を継続しながら生活できる地域づくりを行っていく

10

令和7年度 9月認知症月間の取り組みについて



1

認知症理解啓発活動の予定

- ・パネル展示
- ・まちかど相談会
- ・街頭啓発活動
- ・のぼり設置
- ・オレンジガーデニングプロジェクトの実施
- ・一般向け認知症サポーター養成講座の開催
- ・高梁市図書館、市内図書室での認知症図書フェア
- ・啓発ポスター、啓発ステッカーの掲示
- ・行政放送番組の放送 等

2

パネル展示

- ◆ イズミ 9月 1日(月)～ 9日(火)
- ◆ ポルカ 9月10日(水)～19日(金)
- ◆ 高梁市図書館 9月20日(土)～30日(火)
- ◆ 成羽病院 9月 2日(火)～30日(火)
- ◆ 高梁中央病院 9月 2日(火)～30日(火)
- ◆ 吉備国際大学 10月1日(水)～31日(金)



3

街頭啓発活動のご協力のお願い

街頭啓発活動

- ◆ イズミ 9月 2日(火)
- ◆ ポルカ 9月10日(水)

時間 (午前) 10:00～11:00
 11:00～12:00
 (午後) 13:30～14:30
 14:30～15:30



資料と一緒に配りしている参加表
 にてお返事をお願いします

無理のない範囲で街頭啓発活動へのご協力をよろしくお願いします

4

まちかど相談会（もの忘れ相談プログラム）

- ◆ イズミ 9月 2日(火) 13:30~15:30
- ◆ ポルカ 9月 10日(水) 10:00~12:00
- ◆ 成羽病院 9月 16日(火) 9:30~11:30



マスカット薬局にご協力いただき
もの忘れ相談プログラムを今年度も実施予定です。



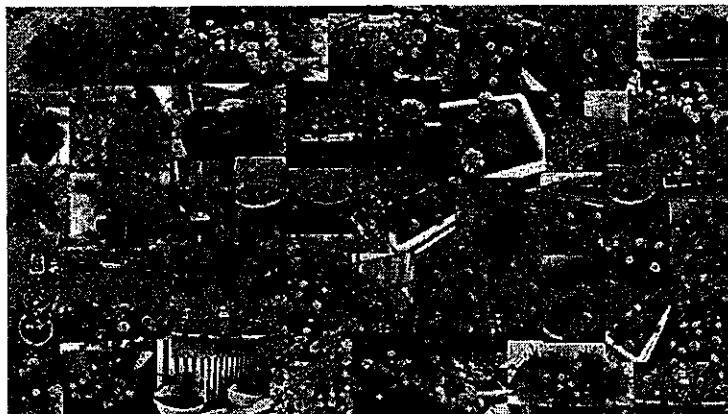
5

オレンジガーデニングプロジェクト

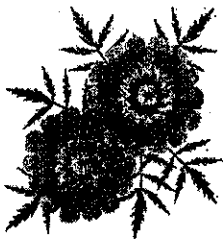
【協力依頼先】

- ・認知症施策検討委員会委員
- ・キャラバン・メイト
- ・認知症サポーター
- ・認知症カフェ運営団体
- ・市内グループホーム
- ・チームオレンジ・オレンジサポーター
- ・地域包括支援センター運営協議会委員

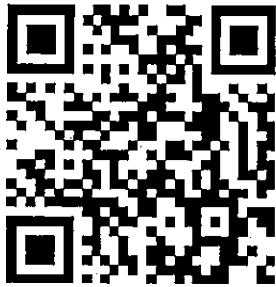
➡パネル展示にて掲示予定



6



オレンジガーデニングプロジェクト



写真をお待ち
しています



<https://logoform.jp/f/JAEKA>

7

○一般向け認知症サポーター養成講座

日時：9月24日（水）14：00～15：30

場所：高梁市図書館4階多目的室

○認知症図書フェア

高梁市図書館・各図書室で開催予定

○行政放送での認知症月間特集の放送について調整中



8

認知症初期集中支援推進事業について



9

令和7年度認知症初期集中支援推進事業

- 認知症初期集中支援チーム員研修（予定）
受講者 2名 ⇒ チーム員 計 7名
- 認知症初期集中支援チーム員連絡会の開催
年3回（5月、10月、1月）
5月29日（木）現在対応している事例について報告し、助言を
いただいた。
- 認知症初期集中支援チーム対応事例
令和7年度 現在のところ 3件

10

認知症初期集中支援チーム

対象：認知症が疑われる人又は認知症の人で、医療サービス、
介護サービスを受けていない者で、対応に苦慮している者。

事業内容：チーム員が、2名以上で対象者宅を訪問し、本人や家族の話を聞き、アセスメントを行い、サポート医とチーム員会議を行い、支援方針を決定し、関係機関と役割分担をして、対象者が必要な生活支援や医療を受けられる様、集中的に支援を行う。概ね6カ月を目途に、介護支援専門員に引き継ぐ。

11

認知症初期集中支援チーム

サポート医	さきがけホスピタル	兒玉 昌純	医師
	まつうらクリニック	松浦 隆彦	医師
	成羽病院	藤原 洋平	医師

チーム員	保健師	助實 雅子、石村 利枝
	主任介護支援専門員	今西 佳奈
	社会福祉士	西川 寛紀、惣田 大輔

12

本人支援について

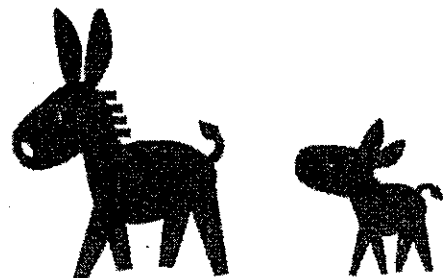


17

本人ミーティングとは？

認知症の本人が集い、本人同士が主になって、自らの体験や希望等を語り合い、自分たちのこれからの暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場。

「集って楽しい！」に加えて本人だからこそ
の気づきや意見を本人同士で語り合い、それ
らを地域に伝えていくための集まり。



18

本人ミーティングの開催

令和6年度 2回開催。

6月19日(水) 13:30～15:00 高梁市役所 会議室

参加者： 本人 4名 家族 3名 支援者 3名

認知症の人と家族の会岡山支部 4名

包括職員 5名 以上 19名

12月4日(水) 13:30～15:30 たいこまるプラザ

参加者： 本人 6名 家族 4名 支援者 5名

認知症の人と家族の会岡山支部 4名

包括職員 5名 以上 24名

19

令和7年度 本人ミーティング

日時：令和7年6月18日(水) 13:30～15:30

場所：たいこまるプラザ

参加者：本人 7名 家族 4名 支援者 7名

包括職員：5名 計 23名

タイムスケジュール：開会行事・アイスブレイク 10分

本人と家族に分かれて話し合い 75分

本人は、簡単なおやつ作りで交流(75分のうち30分)

本人・家族合流して試食。 30分

愛称を決定。 “ぽかぽかサロン”



20

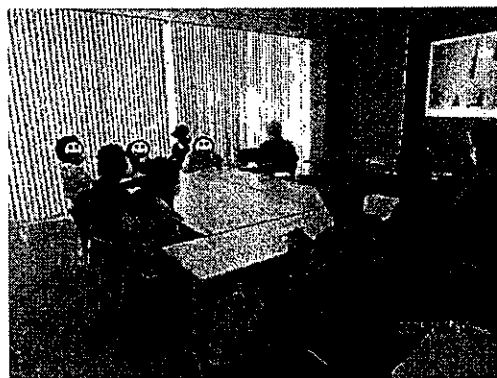
開会行事・家族ミーティング



21

本人ミーティング

持参した写真を見ながら
自己紹介



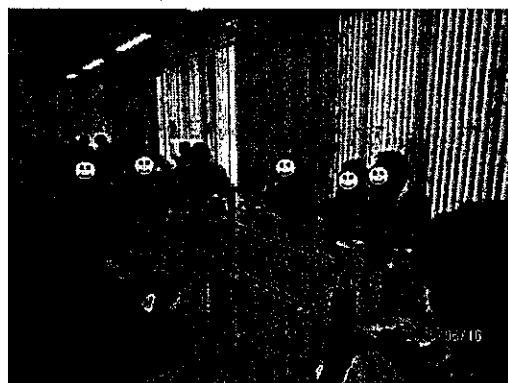
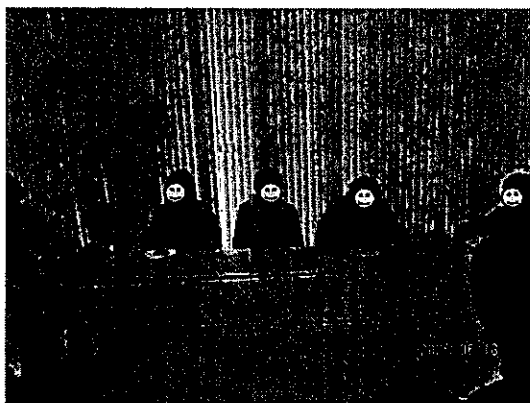
22

どら焼きづくり みんなで和気あいあいと♡



23

試食会 うれしそうな顔が並んでいます



24

本人ミーティング振り返り

- 進行は、難しい。一人より、複数人で話を引き出したほうがいい。
話を誘導してしまいそうで、悩みながら進化した。
本人の口から出た言葉は、本人のものなので、そこから広げるのは、
誘導にはならないはず。
- 写真を持参してもらっていたので、写真をもとに話すことができた。
- 写真を持参できていない人がいたので、事前に受け取っておくとか
工夫が必要。
- 本人と家族が分かれて過ごすため、家族に本人の様子を
見せてあげられたらいいと思う。⇒ 次回、チャレンジ



25

本人ミーティング振り返り

- 家族の方に参加したが、75分間が長いと思っていたが、それぞれ
日々の介護に疲れていたり、同じ境遇の人と話せることで、話が
尽きない様子であった。
- 自分の話も聞いてもらい、人の介護の苦労話も聞き、自分だけでは
ないことや、自分より頑張っている人もいることを知ったり、自分
だけが頑張らなくていいんだと感じられたようだった。
- 自分の夫が、認知症であることを知られたくないと言っている家族
に対して、知ってもらって協力してもらえると楽になると話している家族もおられた。



26

認知症について

認知症って何だろう？

認知症は、様々な原因により脳に変化が起こり、それまでできていたことができなくなり、生活に支障をきたした状態をいいます。

どんな人が認知症になるの？

認知症は誰でもなる可能性があります。年齢が高くなるにつれ、認知症になる可能性が高くなります。若くて30代でも認知症になる人もいます。

私たちにできること

認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守ることが大切です。高梁市では、認知症の人の応援者として「認知症サポーター」を養成しています。

認知症になると何もわからなくなる？

「認知症の人は何もわからない」は間違いです。誰よりも悩んだり、苦しんだりしているのは本人です。忘れることでの困りことは多いですが、性格は病気になるっても変わる前と同じです。

1

チームオレンジの紹介

チームオレンジって、なに？

近所に住む認知症サポーターやオレンジサポーターなどの支援者がチームを組んで、認知症の人やその家族を見守り・声かけし、ともに活動するグループです。

チームオレンジ

私たちが取り組んでいること

- 近所での声かけ、顔見知りを通して、孤立しないようにサポートしています。
- 認知症カフェや集いの場へ誘ったり、集いの場と一緒に活動しています。
- 必要に応じて専門機関へつなぐたり、相談窓口を案内したりしています。

チームオレンジの活動

＜ 地域での活動 ＞

認知症は高齢化率の上昇とともに増加する可能性があります。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守ることが大切です。高梁市では、認知症の人の応援者として「認知症サポーター」を養成しています。

＜ 地域での活動 ＞

認知症は高齢化率の上昇とともに増加する可能性があります。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守ることが大切です。高梁市では、認知症の人の応援者として「認知症サポーター」を養成しています。

チームオレンジの活動

＜ 地域での活動 ＞

認知症は高齢化率の上昇とともに増加する可能性があります。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守ることが大切です。高梁市では、認知症の人の応援者として「認知症サポーター」を養成しています。

チームオレンジの活動

＜ 地域での活動 ＞

認知症は高齢化率の上昇とともに増加する可能性があります。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守ることが大切です。高梁市では、認知症の人の応援者として「認知症サポーター」を養成しています。

チームオレンジの活動

＜ 地域での活動 ＞

認知症は高齢化率の上昇とともに増加する可能性があります。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守ることが大切です。高梁市では、認知症の人の応援者として「認知症サポーター」を養成しています。

2



認知症とともに生きる 「希望大使」、誕生

認知症になっても自分らしく生活し、希望を持って生きていく。そんな人々を「希望大使」として紹介し、認知症とともに生きる人々の希望を広げたい。



「認知症とともに生きる希望宣言」

1. 認知症になっても自分らしく生活し、希望を持って生きていく。
2. 認知症になっても、自分らしく生活し、希望を持って生きていく。
3. 認知症になっても、自分らしく生活し、希望を持って生きていく。
4. 認知症になっても、自分らしく生活し、希望を持って生きていく。
5. 認知症になっても、自分らしく生活し、希望を持って生きていく。

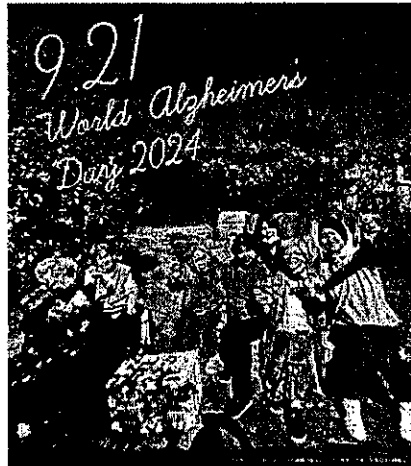
認知症

7



世界アルツハイマーデー (認知症の日)

共に生き
ともに歩もう
認知症



認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

認知症の人と家族の会

8

R67-311-10-10-10

